

会報(速報)百四十九号「櫛の会」十二月例会(十二月十日)

石井 譲

互選

噴煙を風に游ばせ山眠る 特2

冬日落ちテニス練習球探し

一年を振り返りつつ温め酒

湯の宿の湯ざめを誘ふ長廊下 2

寮歌ふとくちずさみゐる焚火かな 3

加藤 将

一山に鐘の音響く寒暮かな 特特4

山裾は寂寞としてただ枯野 2

荒海や津軽海峡鮪船

襖(ふすま)絵の谷からも来る隙間風

夕闇に消へゆく尾瀬の冬景色 1

小泉 寿美雄

八十の手習い暮のウォーキング

電柱に褪せしクマモン冬の暮

遠山や仔犬の赤きちゃんちゃんこ 1

競((せ)るきそふ無き身となれり寒四郎 2

開戦日最敬礼に旧友(とも)の尻

中村 敬

妖艶の黒手袋や相席す 特1

着膨やエレベーターに弾かれぬ

後退の立憲主義や虎落笛(もがりぶえ)

強風や師走の街を丸洗ひ 特4

点滴を連れて談話や日向ぼこ 特1

吉沢 フミ子

登校の子等一列や冬紅葉 1

急逝の友今何処毛糸編む

山里に散るを忘れし冬ざくら

八十路過ぐためらひもなく五年日記

冬枯れや単語出(い)でこぬ英会話

岡田 隆三

凍(いて)蠅や窓が泣いてるやれ飛べよ 1

雪明かり野仏の顔つつましく

孜々(しし)として薯の筋剥く夕餉かな

散骨や船三廻(め)ぐりて冬ざるる 3

音も無く陰(ほと)に落つるや寒椿 2